

## 令和7年度第2回胆江圏域地域医療連携会議 議事録

日 時 令和8年2月5日(木) 18:30 ~ 20:00

場 所 水沢地区センター視聴覚室・研修室

参集者 別添出席者名簿のとおり

委員 23名、オブザーバー 3名

市町等関係部局 1名、事務局 8名

---

### <次 第>

#### 1 開 会

#### 2 挨 拶

#### 3 議 題

##### (1) 協議

ア 岩手県保健医療計画(地域編:胆江圏域)の進捗の評価・検証について

イ 胆江圏域の地域医療構想に係る具体的対応方針について

ウ 奥州市新医療センター整備の進捗状況の報告について

##### (2) 報告

ア 新たな地域医療構想の策定・保健医療計画の中間見直しについて

イ 胆江医療圏域内における医療機器の共同利用について

#### 4 その他

#### 5 閉 会

---

### 1 開 会

#### 【事務局(鎌田次長)】

まだお見えになっていない委員の方がいらっしゃいますが、定刻となりましたので、ただいまから、令和7年度第2回胆江圏域地域医療連携会議を開催いたします。暫時、進行を務めさせていただきます。奥州保健所次長の鎌田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の出席者の状況でございますが、委員全員が御出席の予定でございますが、まだ2名は受け付けていないというところでございます。

また、今回新たに委嘱した委員を御紹介させていただきます。お配りしております「出席者名簿」のNo.22 健康保険組合連合会岩手連合会 事務局長 管野 正明委員 です。よろしくお願いいたします。

なお、「岩手県地域医療構想調整会議設置要綱」第7条により、本日の会議は、すべて公開といたしますので、あらかじめ御了承くださいますようお願いいたします。

それでは、開会に当たりまして、亀井会長から御挨拶を申し上げます。

### 2 挨 拶

#### 【亀井会長(議長)】

おぼんでございます。本日はお忙しいところ、胆江圏域地域医療連携会議に御出席いただき、誠にありがとうございます。

また、皆様には日頃から、地域医療の推進に御尽力をいただき、深く感謝申し上げます。

この会議は、胆江圏域における地域医療構想の推進や地域医療のあり方について協議するものでございます。

本日の会議では、県保健医療計画についての皆様方の取組状況や胆江圏域の地域医療構想に係る具体的対応方針について、御協議いただくとともに、2040年を見据えた「新たな地域医療構想」の基本的な考え方、国の議論の状況や今後のスケジュール、岩手県保健医療計画の中間見直し等について、県庁医療政策室の職員から説明します。来年度は、本格的に策定に向けた議論を進めることとなりますので、本日は先駆けて、御意見、御質問等いただきたいと思っております。

また、奥州市新医療センター整備の進捗状況について、奥州市より説明があるところでございます。その他、いくつか報告事項がございます。

限られた時間となりますので、進行に御協力をいただきますようよろしくお願いいたします。

#### 【事務局（鎌田次長）】

ありがとうございます。それでは議事に移ります。議事の進行につきましては、亀井会長によりしくお願いいたします。

### 3 議 題

#### (1) 協 議 ア 岩手県保健医療計画（地域編：胆江圏域）の進捗の評価・検証について

##### 【亀井会長（議長）】

はい。それでは、次第に従って進めさせていただきたいと思っております。

議題毎に説明を終了したところで、委員の皆様からの御意見、御質問等を伺いたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

次第3「(1)協議 ア 岩手県保健医療計画（地域編：胆江圏域）の進捗の評価・検証について」、事務局から説明をお願いします。

##### 【事務局（小原主任主査）】

資料1-1、1-2の説明

##### 【亀井会長（議長）】

それでは、ただいまの報告について御意見、御質問等ある方は挙手をして、所属とお名前をおっしゃってから御発言をお願いしたいと思います。何かございますか。特にないでしょうか。

各機関毎に、様々活動しているわけですが、関係機関同士で連携してやってくようなことも、増えてきてくれればと思っておりますので、継続してやっていただければと思います。よろしくお願いいたします。

では、質問がないようですので、次に移りたいと思っております。

#### (1) 協 議 イ 胆江圏域の地域医療構想に係る具体的対応方針について

##### 【亀井会長（議長）】

それでは、次の議題に移りたいと思っております。

次は「イ 胆江圏域の地域医療構想に係る具体的対応方針について」、事務局から説明をお願い

します。

**【事務局（小原主任主査）】**

資料 2-1、2-2 の説明

**【亀井会長（議長）】**

ありがとうございます。それではただいま説明のあった件について、御意見等ある方、挙手の上、御発言をお願いいたします。

**【森谷委員】**

保健所の森谷です。いつもお世話になっております。

水沢病院と前沢診療所で休床がそれぞれ 40 床、19 床とあるのですけれども、前沢診療所は、資料 2-2 の 25 ページで無床化の検討を進めることとしているということですが、検討の状況あるいは、もう検討は終わって何か廃止にする予定なのか、進捗の状況が分かれば、医療局からお話していただければと思います。

**【亀井会長（議長）】**

はい。よろしく申し上げます。

**【朝日田委員】**

はい、奥州市医療局で病院事業管理者をしております、朝日田と申します。

今、御質問いただきました水沢病院と前沢診療所、それぞれ休床があるわけですが、前沢診療所につきましては、1 度機能が止まったところから再開しましたけれども、ベッドは空けていない状態が続いて、現在まで来ておりました。

水沢病院についても、数年前から段階的に休床を増やしてきたような状態がございます。検討という表現ではございますが、将来的なあり方という形で、今、内部での検討を進めてきておりました。

方向性としましては、前沢診療所については当面、再開の見込みというのは考えておりませんので、然るべきタイミングで廃止ということも考えなければいけない時期に来ていると思っております。

また、水沢病院につきましては、今度新医療センターの関係もございますけれども、この段階ではもう 80 床を謳っておりますので、当然、今の病床をずっと維持していくということは考えておりません。

この辺については、どのタイミングで、病床廃止していくかということは、国の施策との兼ね合いがございますので、そこを見つつ、進めたいと思っております。以上でございます。

**【亀井会長（議長）】**

ありがとうございます。他に何か質問ありますか。

**【森谷委員】**

もう1つ、胆沢病院の鈴木院長先生に。2月からハイケアユニットを設置されて運用されていると思うのですが、その病床は高度急性期機能を担うという認識でよろしいでしょうか。

**【鈴木委員】**

はい。胆沢病院鈴木です。おっしゃるとおり2月からHCUのハイケアユニットが6床で、運用開始されております。

2月は準備的に運用し、3月から正式に高度急性期の病床として申請をして、運用する予定ですので、3月からは胆沢病院は高度急性期が6床ということになると認識しております。

**【亀井会長（議長）】**

はい。ありがとうございます。他に何かございますか。

国が求めている数字にかなり近づいているというところはあると思います。ただ、2040年に向かってさらに人口減少になるので、病床は必要なくなってくるだろうと言われるのですけれども、あくまでも、数字の上での話でして、実際に病床が必要なくなるかどうかというところ、高齢者が増えて平均年齢が高くなるため、病床を使わなければならない人は増えてくると思います。

ですので、国が言う「40年問題」というところではなくて、20年、40年のところは超えて、その先を地区としては見ていかなければならないと思っているところですので、皆さん、人口動態等を見ながら考えていってください。

**(1) 協議 ウ 奥州市新医療センター整備の進捗状況の報告について**

**【亀井会長（議長）】**

次に移りたいと思います。

次は「ウ 奥州市新医療センター整備の進捗状況の報告について」ですが、ここでの協議は、新医療センターの整備に関する新たな動きについて、奥州市から進捗状況を説明しますので、委員の皆様から意見をいただき、同市には引き続き意見を踏まえて進めていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、奥州市から説明願います。

**【奥州市新医療センター建設準備室 桂田室長】**

資料5の説明

**【亀井会長（議長）】**

ありがとうございます。

それではただいまの説明につきまして、挙手の上、御意見等を御発言ください。はい。本田委員どうぞ。

**【本田委員】**

あと4年後に開院ということで、昨日公園に行ったら、もうボーリング調査が始まっていて、本気になったなと驚きました。やはり病院というのは、どのような医師がどのような医療をやるかと

というのが一番大事な話ですので、去年の市民向けの説明会の資料には、東北医科薬科大学から、整形外科や総合診療科の先生を確保できる道筋がついた、あとは様々な協定を結ぶということが載っていました。それを市長さんが市民に説明されたと思いますが、その点に関して全く進展がないようなのですが、医師確保の後ろ盾がないまま、こうやって病院を建てて成り立つのでしょうか。

今、平均年齢が60歳となり、かなり高齢の先生が増えていて、若い先生も1人いらっしゃいましたけど、医師確保の道筋というのはどうなっているのでしょうか。何も進捗がない状況でこのまま選挙戦に入るといのはやはり市民に不誠実じゃないかと。こういう経緯でこうなっていますという説明は、市民に対して選挙前にしなければならぬのではないのでしょうか。

これは亀井会長も、何度かおっしゃっていた内容なので、そこははっきりさせていただきたいと思います。

説明会だけを聞いていると、医師が来るのではないかというような期待をもっている市民は、たくさんいると思います。きちんと医師が確保できていないということを明言するべきではないでしょうか。市長さんにお答えをいただければと思います。

#### 【亀井会長（議長）】

市長、よろしいですか。

#### 【倉成委員】

医師の確保というのは、確かに難しい問題でありますし、我々も今、東北医科薬科大学は、補助的な手段として挙げましたけれども、実際には、本田先生が以前よりおっしゃっていたとおり、医局を通しての医師の招聘や、個々のお医者さんのネットワークを通しての医師の招聘でありました。

また、我々の場合は、奨学金制度を設けていますので、それで長い期間をかけて、医師を養成していくということも含めて、医師を補充するということを考えております。

東北薬科大学について、今お話しましたけれども、本田先生をはじめ、様々な医科大学との関係等、様々な指摘がございましたので、止まってはいませんけれども、時間を長くとることにしました。つまり、4年後の拠点となる医療センターが始まるまでにきちんとした協定を結んでやるということです。

ただそれは、おっしゃるように、選挙がありますので、その後でないと、誠実に相手と交渉できない。ですから、そういう視点で、今はペンディングの状況だと考えていただいて結構です。

ただ、医師の招聘については、様々な形で医療局を主にトライアルしていて、今年度もまた、新たな医師の確保ができる目途が立っていますので、様々な方策をとらないと、なかなか医師の確保が難しいというのは事実だと思います。

東北医科薬科大学のお話については、寄附講座等も含めて連携をとっていますので、これから具体的な協定に向けて話を進めないといけませんけれども、現時点では進んでいないのは事実です。以上です。

#### 【亀井会長（議長）】

はい。よろしいですか。

動き出して、基本設計が始まっているわけですから、それなりにお金も使ってやっているわけですし、進捗状況は常に議会に説明するようにと、今日の新聞に載っていますよね。

ですから、そういうところをしっかりと議会の方々にも、その都度説明するとともに、我々医療関係者にも説明してください。

実際には、各大学病院にそっぽを向かれてしまうでしょうがないですから、常に、進捗状況を報告するような形を作ってください。よろしくお願いします。

他に何かありますか。中目委員。

#### 【中目委員】

薬剤師会の中目です。

まずは岩手県の方々には、病院薬剤師の確保の対策を立てられたということで、どうもありがとうございます。医師の確保についても今後ともよろしくお願いします。

また、奥州市も、今おっしゃったとおり、医師の確保についてよろしくお願いします。

さて、奥州市医療局の薬剤師の確保については、極めて困難な状況にあると聞いております。

今までどおりの5つの医療施設を現状のまま維持していく方針で、統合などの話は今後、そのような時期が来たらというお話が出ていたと思いますが、5つの施設をこのままの状態に運営していくのは、薬剤師の場合、日直体制がもう組めないというような状況にあるところです。当面施設は現行のままというお話なのですが、もはや施設はそのままでもよろしいのですけれども、例えば、分院化やサテライト化などによる運営の一元化が、まさに今必要になっているのではないかと思います。

また、新医療センターの運営もこれが実現した上ではないと、なかなか運営が成り立っていかないのではないかと考えております。

次に、胆沢病院は地域医療支援病院として今後胆江地域の急性期を、また、江刺病院につきましては、特に江刺地域の地域医療福祉連携を中心にさらに充実して欲しいと考えているところです。

そして、新医療センターの業務に関しましては、奥州市のすべての地域をカバーして欲しいと思っている次第です。

最後に新医療センターについては、あまり長い時間をかけておりますと、今後、まごころ病院の改築や新築の時期が迫ってきております。そろそろ、そちらの検討を進めていかなければならない時期になっているかと思います。以上です。

#### 【亀井会長（議長）】

桂田さん、どうぞ。

#### 【奥州市新医療センター建設準備室 桂田室長】

ありがとうございます。

まず、薬剤師さんの人材確保というのが今、市立の医療施設でも大変苦労しているというのは御指摘のとおりでございます。全部の職種が大変ですが、特に、薬剤師さんは民間のドラッグストアのようなところで、需要があるということで、大変苦労はしております。

こちらとしても、将来「2040年問題」を考えたとき、患者さんは当面減少がないかもしれないのですが、少子化によって、医療人材がどんどん減少していくというのは、もう予測されるところでございます。

基本的には、地域包括ケアシステムを考えた場合には、地域ごと、日常生活圏域ごとに拠点となる医療施設は必要と思っていて、理想としては、全部の地区に、公立の病院、或いは診療所というのが必要だという認識ではあります。

一方で、人材が不足していく中で、やはり統合といったところも考えなければならないという時期に来ているのはそのとおりだと思います。

まずは、何とか医療DX等を使って、効率的な医療体制や運営の一元化を検討していかなければならないということで、今年度は外部の医療関係者の先生方にも御意見を伺いながら、将来のあり方方針検討ということで、今、医療局の中でも検討は進めております。

その中で医療機関の少ない地域については、まごころ病院と衣川診療所をグループ化して、何とか一体的な運営を目指せないか、水沢の市街地の水沢病院と前沢診療所を一体化して、運営の一元化を進められないか、そういった方向で少し踏み込んで、検討しているところでございます。

それから、新医療センターが市全域をカバーできるようにということで、在宅医療の拠点にしたという考え方もございますし、高齢者救急の機能を主体的に担っていきたいというような考えを持って取り組んでおります。奥州市あるいは胆江圏域をすべてカバーし、やっつけられるものと考えております。

いただいた御意見を十分に踏まえまして、今後検討を深めて参りたいと思います。ありがとうございます。

#### 【亀井会長（議長）】

はい。薬剤師さんはかなり少ないみたいで、胆沢病院もかなり苦しいですよ。薬剤師については、給与面や、働き方、働く時間を見ると、ドラッグストアと病院と待遇がおそろしくかけ離れているのが現状です。

ですので、県病や大学の薬剤師の給料とドラッグストアの給料を比べると、みんなそちらに行くのだなど、就職活動しているところを見て思いましたので、何かてこ入れしないとなかなか来てくれないのではないかと思います。

市立病院のいいところは、1回就職するとその場所でずっと働けるというのがあります。1年ごとに転々とするというような形になるのを嫌がる人をうまく捕まえるという方法もあると思います。様々な策を練ってください。

卒業する子も半分以上が女性ですので、途中で結婚されて地域の小さな薬局関係に勤めたいという方もいるそうです。半日働いてもいいという人、薬剤師免許持っているけれど薬剤師をしてないという人たちが結構いるはずですから、そういう人達を上手く発掘するようなことを考えてみてもいいのではないかと思います。

他に何か質問、御意見等ありますか。井筒委員。

#### 【井筒委員】

美希病院の井筒でございます。

進捗状況について報告いただきましたが、最後の4番で、今の状況に関しまして、基本設計に進みながら、最終的には実施設計に進んでいくというプロセスに関しましては、一般的ですので、質問の余地はないというところではあるのですが、今現在の立ち位置というところに関して、1点ポイントを絞って質問させていただきたいと思います。

4番のところに書いてございますが、疑問点などは基本設計の段階で検証しますということを伺いました。

何度もお聞きしていることではございますが、これらの状況を踏まえてということですし、先程のお答えの中で、将来のあり方検討を今後進めていくようだと伺って、非常に私たちとしても安心して聞いていたのですが、どうしてこの段階でこの医療センター案の基本計画が終わったと判断できるのかということに関して、強く疑問を抱くというところがございます。

将来のあり方検討というのは、そのものが医療センターの基本計画段階ではないのかというところを思っております。

もし、こういった将来のあり方検討を真剣に取り組んでいかれるのであれば、この医療圏全体もしくは市全体の医療を進めていく新医療センターのあり方を基本計画段階から、地域全体の医療構造を見据えて、市民の医療ニーズにきちんと寄り添ったものを作っていただきたいと思います。

つまり、これはまだ基本計画段階からもう1回リスタートの時期でなかろうかということをお私に思った次第でございます。

基本設計に進む段階だということの根拠を教えてくださいたいと思います。

#### 【亀井会長（議長）】

はい。どうぞ。

#### 【奥州市新医療センター建設準備室 桂田室長】

御意見ありがとうございます。

市立医療施設のあり方といたしましては、先程も申し上げましたとおり、これから大事な地域包括ケアシステムというのをしっかり取り組んでいきつつ、市立病院もそこに向き合っていかなければならないという中で、やはり日常生活圏域の住み慣れた地域の中で、生活が成り立つようにという基本的な考え方がございます。理想としては、5つの医療施設は拠点として残しながらやっていくというのが、理想だと言われるかもしれませんが、市としては、住民の方のアクセス等を考えますと、そういう形で目指すべきだろうと思っております。

そういう意味では、水沢病院は施設が古くなりましたので、後継となる施設というのは、建て替えが必要だということで、まずそこは進めたいと思います。

ただ、そこを進めた後、何とかうまく工夫して、人材が少なくなっても様々なタスクシフトやDX等を使い、効率良く運営も一元化して、様々な努力をしていこうと考えております。

ただ、それをやってもなお、統合を考えなければならない時期が来るとすれば、そうってから検討してもおそらく遅いので、そうなったときの姿というのも、今から並行して検討していかなければならないということで、今議論をスタートさせたところでございます。

ということで、まずは理想のとおり進むかどうか、これから様々な建設費等が正確に出てきますので、そういったところを改めて医療関係者の皆様にはお示しいたします。様々な御議論をいただければと思います。

もう1つは新たな地域医療構想がこれからスタートするということですので。この後、議論が始まるので、そういったところもしっかり踏まえながら、将来のあり方は、再度そこで検討をさせていただきたいということで、このような進め方をさせていただきました。

**【亀井会長（議長）】**

よろしいですか。他に何かございますか。本田委員どうぞ。

**【本田委員】**

病院財政の資料について、キャッシュがどんどん減っていますよね。毎年8億円くらいが消えていって、多分病院が建つ前に医療局のキャッシュがなくなると思いますがけれども、そういう状況で、どうやって経営をされるつもりですかという純粋な疑問です。要するに、普通だったら破産しなければならないわけですよね。どうやっていかれるのか。市民に負担をお願いしてやっていくのですか。

医療関係者からこれだけ様々な議論が出ている中で、地域包括ケアのために必要だと言い切って、市は建てるわけですから、財政面でどのような後ろ盾、根拠があってやっていけるかどうか、建てる前にキャッシュがなくなったら、建てられるのですかという質問です。

**【亀井会長（議長）】**

はい。どうぞ。

**【奥州市新医療センター建設準備室 桂田室長】**

令和6年度の決算状況では、6億円の赤字というところになりまして、7年度の見通しでも、予算段階では最終予算の決算見込みとして一応7億円という数字にはなっているのですがけれども、現実には予算と決算の違いで、1億円程赤字圧縮になります。それから今、水沢病院も、入院の方が好調ということもありまして、入院収入が伸びるのではないかなというふうな見方もしておりまして、6年度が底で、そこから回復していくというところで、8年度の予算も立てているのですがけれども、診療報酬改定がよく見えないということで、そこを反映させられていないです。それから新医療センターの基本設計の費用も計上したために、その分悪化しているということで、少し赤字幅が増えたように見えるのですがけれども、実質的には、ゆくゆくは改善してくるだろうというふうに見込んでおります。

今、どうするのと言われるとなかなか難しいのですがけれども、資料の4に現時点の考え方を示しましたとおり、今年4月に医師を何人確保できるかといった状況であるとか、あとは収支改善、診療報酬改定も、もう少しすると見えてくると思いますので、そういったところも踏まえて、収支改善といったところをもう少し具体的に説明できると思います。そういったところを、基本設計と並行して取り組みまして、今後、そこをしっかりと示して参りますという答えになります。

**【本田委員】**

質問の答えじゃないと思います。希望的観測を述べるのはいいのですが、おそらく間違いなくキャッシュはゼロになります。

多分、何年かで、おそらく今のペースでいけば、よほど補助金等がなければそこまで水沢病院の収益が改善することは多分ないので、現実を見れば、ほぼキャッシュはゼロになるだろうと思います。そうなった場合どうするのですかという質問です。

### 【奥州市新医療センター建設準備室 桂田室長】

資金がなければ病院運営できないというのはそのとおりでございまして、そうならないように努力はするのですが、もしなっときということになれば、資金を外部から調達するしかなくなるのですけれども、その時に、勝手に外部から借りるといことが自治体の場合は出来ず、総務省や、国から特別の許可をもらって、特例債のような形で、資金調達することになります。その時には、再建計画のようなものを国の強力な指導のもとに作るようになります。

その中で、本当に抜本的な改善策、例えば給与カットだとか、人をクビにする等ですね、かなり厳しい内容で、再建計画を作らせられることになると思います。そうやって資金を調達して、収支改善を図りつつ、編成をしていくというような枠組みになっております。

ただ、そうはしないように、何とか収支改善に向けて今取り組んでいるということでございます。今の時点で、具体的に数字として、材料をお示しできる段階ではないのですけれども、新年度になり、診療報酬等が見えてくれば、もう少し現実的なお話ができると思います。

### 【本田委員】

希望的観測だけでなく、やはり現実を見れば、そういう可能性は大いにあるわけで、そういう説明も市民にしっかりするべきであると思はいます。建てるのはしょうがないと思はいますが。

### 【亀井会長（議長）】

議会でも問題になったようではございますけれども、枯渇しますよね。この間、実は胆沢病院で会議したときも、そんな話になりました。ということは、倒産ですよね。民間企業であれば、医療局全体の、どこの病院も赤字経営して、赤字分がキャッシュフローから出ているわけですから、それがうまくいかなければ、普通の民間であれば、倒産してしまうところではございますけれども、そこら辺をうまくやる方法があるのかどうかということではございます。

どう考えたって、毎年10億近くあったのが、4年後にプラスになるとは思えないですよね。さらに、マイナスになっていく可能性はあります。人件費は高騰していますし、物価も上がっています。医療費が追いついていかないですよね。特に公立病院の場合、不採算部分がいっぱいあるわけです。

その不採算の部分がもともとあるにもかかわらず、そうやって、いかにもプラスになるようなデータというか、作文をして、市民に提出するというのは、私も良くないのではないかと思います。実際、赤字になって大変だけれども、市民の皆さんがここだけは、欲しいと言っているのだから、皆さんから税金をいただきますとはっきり言ってしまった方が親切ではないかなと思はいます。

この件につきましてはかなり時間をかけましたので、次に移りたいと思はいます。

## （2） 報 告 ア 新たな地域医療構想の策定・保健医療計画の中間見直しについて

### 【亀井議長（奥州医師会 会長）】

（2）の報告に入りたいと思はいます。「（2）報告 ア 新たな地域医療構想の策定・保健医療計画の中間見直しについて」、事務局から説明願はいます。

### 【事務局（医療政策室 西川医療政策担当課長）】

資料3の説明

**【亀井会長（議長）】**

質問等ございましたら、お願いします。

人口減が全国に比べると、大きいですね。先程も言ったとおり、岩手県胆江地区は、実はもう25年、次は40年のところに来ていますので、40年以降にどうなっているかというのを見た上での動きをしていかなければならないだろうなと思っています。

あとは、国の人件費に対する支援があるようですので、もらえるものは全部もらうようにしてください。今日も市の方からも、少し支援が出るというような封書が来ていましたので、是非とも皆さん、申請してください。医師会、歯科医師会、薬剤師会、同じように出るはずですが、金額は多少違うかもしれないですけども、よろしくお願いします。後で国と県の方からも、そのような申請書類が来るとしますので、しっかり見逃さないようにしておいてください。ベースアップ加算をとっていないとだめという話がありますので、2月中に申請して、3月からベースアップ加算を取れば、今回の助成金はもらえるということになるみたいです。ただ、今あちこちからベースアップ加算の条件をなくして欲しいというような運動はしているみたいですけれども。選挙期間中で、なかなか意見を言いたくても、言いに行く場所もないというのが現状みたいです。選挙が終わったら、またそういう話が出てくるのかなと思います。

特に御質問等ございませんでしょうか。なければ次に移りたいと思います。

**(2) 報 告 イ 胆江医療圏域内における医療機器の共同利用について**

**【亀井会長（議長）】**

では、次の議題「イ 胆江医療圏域内における医療機器の共同利用について」、奥州保健所から説明願います。

**【事務局（小原主任主査）】**

資料4の説明

**【亀井会長（議長）】**

今の説明につきまして、何か御質問等ございますか。

実際どのように共同利用のお願いがあるのでしょうか。各病院の先生方はいかがですか。胆沢病院さんいかがですか。

**【鈴木委員】**

はい。ありがとうございます。胆沢病院の鈴木です。

当院の共同利用の申し込みができるホームページ欄等に記載してありますけれども、申し込みはあまりないです。必要に応じて患者さんを御紹介いただいて、そこで検査をして、結果をお返しするということが多いのですが、検査だけということは、ほとんどないです。

**【亀井会長（議長）】**

まごころ病院さんいかがですか。

**【伊藤委員】**

まごころ病院の伊藤です。昨年の2月にCTが入り、MRIも令和5年に入っているのですが、胆沢の地域にあるということなのか、受託検査について、市の医療機関の先生方に御案内しているのですけれども、やはり水沢に位置する医療機関におそらく受託される医療機関がほとんどようで、正直なところ、年に数件しか受託がないのが実情です。

**【亀井会長（議長）】**

水沢病院さんいかがですか

**【遊佐委員】**

はい。水沢病院の遊佐です。

この表にある既存の医療機器の共同利用の中ではMRIが掲載されていますけれども、MRIだけではなくその前に入ったマルチスライスCTも合わせて受託検査という形で、他の医療機関の先生方、あとは、MRIですと、整形外科の開業医の先生等から、依頼があつて当院で検査だけ行って、CD-Rの形で依頼ごとにお返りする。それに基づいて、医療の必要なものを判断していただく。例えば、当院で整形外科の先生が来てくださって、手術等していただくという形で共同利用の方は行っております。

**【亀井会長（議長）】**

さらに共同利用が進んで、活用するような状況になってくれればいいと思います。

胆沢病院ですと、既存の患者さんだけでも精一杯だろうと思うので、まだ余裕があるところについては、各医療機関からお願いするといいいのではないかなと思います。検査だけお願いするということは、患者さんにとっては、そこで医療費が少し削減されるわけですよ。払う金額が減るわけですよ。紹介で行くと、紹介先でも初診料を払うので、その部分が少し減る形になるでしょうから。うまく利用していくことは必要なだろうと思います。

他に何か質問はございますか。ないようですのでこの件につきましては終了したいと思います。

## 5 閉 会

**【亀井会長（議長）】**

本日は委員の皆様には、公私ともお忙しいところ、御出席いただき、また、長時間にわたり円滑な議事進行に御協力いただき、ありがとうございました。

それでは、進行を事務局にお返しします。

**【事務局（鎌田次長）】**

亀井会長、どうもありがとうございました。

それでは、本日の会議を終了させていただきます。

皆様どうもありがとうございました。